

# ふた 二つの かご

ある 晴れた 天国での 日の こと。天使長の  
ガブリエルが、二人の 幼い 天使を よびました。神様が、  
特別な 任務で 地上に 行くための 天使を 二人、  
必要としておられたからです。天国中の 天使たちは  
みんな、この 特別な 任務の ことを 聞いて、わくわく  
していました。中でも、地上に 行くように 選ばれた  
ベンと アンジェラは、こうふんで 胸が いっぱいでした。  
二人は つばさを せいいっぱい 羽ばたかせ、全速力で  
飛んできました。

ガブリエルが 言いました。「来てくれて、ありがとう。  
神は、君たち 二人を、この 特別な 任務のために 選んで  
くださった。さて それには、かごが 一つずつ 必要だ。」

そう 言って、ガブリエルは 二人の 天使に キラキラした  
金色の かごを 渡しました。二人の 幼い 天使は、その  
かごで 一体 何を するのだろうと、わくわくしながら  
説明を 待ちました。



「ベン。神は君に、地上に行き、人々が神に  
向かって祈った祈りを全部集めてきてほしいと  
願っておられる。健康やら新しい服やら食べ物など、  
神に求めて祈った祈りは全部だ。」と、ガブリエルが  
言いました。

「かしこまりました!」と、ベンが答えました。

「さてアンジェラも、かごをいっぱいにして来なさい。  
地上に行き、神への賛美と感謝の祈りを集めて  
来るのだ。」

「かしこまりました、天使長ガブリエル様。  
おおせのようにいたします。」

「友よ、ありがとう。二人とも、きっとこの任務を  
りっぱに果たしてくれるであろう。神は、ご自身の  
子どもたちに毎日与えておられる祝福を、みな  
がどれほどわすれずに感謝し、賛美しているかを  
見るために、二つのかごを比べてみたいと思われたのだ。」

「この任務のために、ほくたちを選んでくださって、  
ありがとうございます。」と、ベンが言いました。

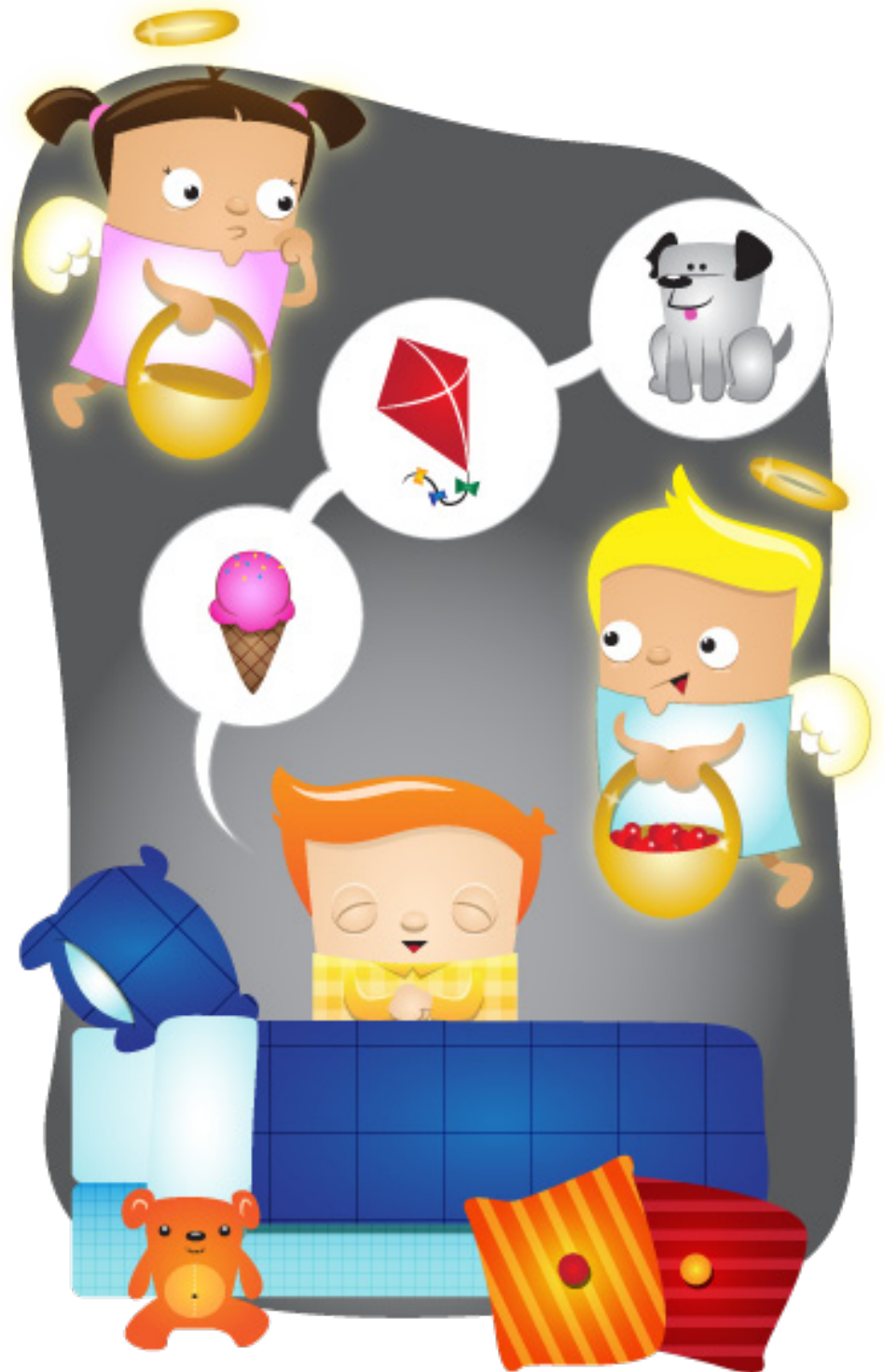


「<sup>さんび</sup>賛美で <sup>あふれる</sup>あふれる <sup>かご</sup>かごを <sup>も</sup>もって <sup>かえ</sup>かえりたいと  
<sup>おも</sup>おもいます。そうすれば、<sup>かみさま</sup>神様も <sup>よろこ</sup>喜んでくださるでしょう。」

アンジェラも <sup>い</sup>言いました。

<sup>ふたり</sup>二人の <sup>しあわ</sup>幸せな <sup>てんし</sup>天使は、<sup>にんむ</sup>任務を <sup>は</sup>果たすために  
<sup>と</sup>飛び立ちました。天国の <sup>てんごく</sup>天使たちは <sup>てんし</sup>みんな、それを  
<sup>み</sup>見て <sup>かんせい</sup>歓声を <sup>あ</sup>上げました。神様への <sup>かみさま</sup>賛美が、それとも  
神様への <sup>ねが</sup>願いが、どちらの <sup>かご</sup>かごが <sup>いっばい</sup>いっぱいになって  
<sup>ふたり</sup>二人が <sup>く</sup>もどって来るのが、みんな <sup>み</sup>見たくてしょうが  
ありません。

アンジェラと <sup>ちじょう</sup>ベンは、地上を <sup>あますところなく</sup>あますところなく  
<sup>と</sup>飛び回りました。すべての <sup>むら</sup>村や <sup>まち</sup>町や <sup>のうじょう</sup>農場、それに  
<sup>びょういん</sup>病院や <sup>ほいくえん</sup>保育園や <sup>がっこう</sup>学校や <sup>じどうこうえん</sup>児童公園まで <sup>まわ</sup>回りました。  
二人は <sup>ふたり</sup>一軒一軒の <sup>いえ</sup>家や、<sup>こ</sup>子どもたちが <sup>ひざまずいて</sup>ひざまずいて  
<sup>いの</sup>祈る <sup>ベッド</sup>ベッドの <sup>ひと</sup>一つ <sup>ひと</sup>一つまで、<sup>まわ</sup>回ったのです。





なんにち 何日も たち、二人の 天使たちは かがを 持って、  
かみさま 神様の 元へ もどって 来ました。天国の 天使たちは、  
ベンと アンジェラが かがを 手にして もどって  
くるのを見と、歓声を 上げました。

かみさま 神様は やさしく ほほえみながら、両手を 差し  
出して 二人を むかえ入れました。「さあ 来なさい、  
ちい 小さき 者たちよ。持ち帰った ものを、早く 見せて  
おくれ。地上の わが民は、わたしの 祝福を 感謝する  
じかん 時間を 取っていたかね、それとも、ただ わたしに  
ねが 願い事を するばかりで あったかね？」

ベンが 最初に 前に 出ました。「わが主よ、地上を  
あますところなく 回って、人々が あなたに 願い事を  
して 祈った 祈りを すべて 集めてきました。」そう  
いうと、ベンはいっぱいに なった かがを 神様の  
あしもと 足元に 置きました。あまりにも いっぱいだったので、  
いの 祈りが 神様の み座まで ふわふわと あふれ出して  
きました。



かみさま い  
神様が 言いました。「わたしの 民は、忠実に  
いの もと  
祈って、求める ところを わたしの 前に たずさえて  
おるのだな。よるこ 喜ばしい ことだ！ わたしは、よるこ 喜んで  
いの こた  
みな の 祈りに 答えよう。さて 次は、わたしの つぎ しゅくぶく  
祝福を  
かんしゃ  
感謝するために、どれだけの もの じかん と  
時間を取って  
いるかを見るときしよう・・・

アンジェラよ、かごを ここに 持って来なさい。」

アンジェラは、まだ いっぱいに なって いない  
じぶん  
自分の かごを見、み かな きも  
悲しい 気持ちで 神様の 足元に  
それを お  
置きました。「主よ、わたしも また、あなたへの しゅ  
さんび  
讃美と 感謝を あらわ いの  
表す 祈りを さがし求めて、もと ちじょう  
地上を  
あますところなく まわ き  
回って来ました。たくさん あるに  
ちがいないと おも  
思っていたのに、しゅ み  
主よ、見つかったのは  
これだけでした。」



がみさま がお  
神様の 顔が くもりました。「愛する アンジェラよ、  
よく やってくれた。わが民が わたしに 感謝を 表すのを  
わすれるとは、悲しい ことじゃな。もっと 感謝すれば、  
わたしも 民を もっと 祝福でき、もっと 多くを  
与えられるという ことを、みなが 思い出してくれると  
いいのじゃが。」

がみさま てんごく てんし い  
そして、神様は 天国の 天使たちに 言いました。  
ひとびと まな きょうくん  
「人々には、学ばねばならない 教訓が あるようじゃ。  
かれ 彼らのために 祈ってほしい。わたしに 感謝し 賛美する  
ことが、わたしの 心に 喜びを もたらしてくれるのだと  
き 気づいてくれるようにな。そして、 賛美し 感謝すると、  
かれ 彼らの 心も また 喜びに あふれ、わたしの 祝福が  
なんばい  
何倍にも なるのだ。」

というわけで、その日、天国の すべての 天使たちは、  
あたま いの ちじょう ひと こころ  
頭を たれて 祈りました。地上の すべての 人の 心が  
かみ さんび み がみさま さんび  
神への 賛美で 満たされ、いつでも 神様に 賛美を  
ささげますように。

